

蒼風

たかぎ たかゆき 44歳 『情熱と行動力』
岐阜県を変える男

発行人／岐阜県議会議員 高木貴行 多治見市滝呂町17丁目60の1TEL0572-45-0265

県議会議員 県政だより

高木 貴行

VOL.
31
2023年春

全国初の第2子以降に
10万円支給

中学3年生に
進学準備金 3万円も

子育て世代に 手厚い予算

岐阜県
2023年度予算案
一般会計
8897億円

皆さまごんにちは、現在4期目を務めさせていただいています岐阜県議会議員の高木貴行です。2月22日から令和5年第1回岐阜県議会定例会が開催されており、主に4月から2023年度予算案について審議がなされています。

新年度当初予算案の一般会計総額は8897億円で、2年連続で過去最大を更新しました。優先順位が高い政策課題として「社会経済の回復・再生・転換」と「人口減少の課題に対応する事業に積極的に予算が配分されています。

特に、人口減少に歯止めがかからないことから、少子化対策や子育ての問題に対する取り組みが強化されています。

また、高校進学などの準備金として中学3年生1人あたりに現金3万円も支給されます。現在の中学生から支給し、就職する場合も対象になります。「書籍代に3万円程度必要」として金額を設定し、こちらも所得制限は設けられていません。

加えて、少子化の大きな要因についている非婚化・晩婚化への対策も強化します。県民の婚姻率（人口千人あたりの婚姻件数）は、2021年時点では3・5と、全国平均の4・1を大きく下回っているため、結婚を望む人を支援するため1億7千万円の事業費を計上し、お見合いイベントや、企業で働く独身男女の異業種交流会の開催などにも力を入れます。

高木貴行 4期16年 主な実績



Point
01

- 01 婚活支援事業【平成20年】260万円を予算化
●「独身男女の出会いの場づくり」を予算化
●県内5圏域で「セミナー&出会いイベント」の開催
●ボランティアによる独身男女の出会い相談や仲介事業

- 02 少子化対策に関する意識・実態の調査
【平成22年】260万円を予算化

- 03 独身男女の出会いの支援【平成23年】93.4万円を予算化

空き家対策



Point
02

- 01 岐阜県の空き家数【平成30年】
平成5年と比べ2倍超、空き家率は
15・6%と全国平均を上回るレベル
02 岐阜県空き家等対策協議会を設置
03 市町村職員に対する研修会を開催
04 空き家対策に係る市長村補助制度
に対し支援を実施

その結果

- 空き家対策支援補助金
- 空き家対策人材育成支援事業
- 空き家等に関する相談体制の整備などで、約8,500万円を予算化



運転免許証自主返納の推進



- 01 制度発足当初は本人が警察署か運転講習センターに持参しなければならず「返納に行くための交通手段がない」「警察署が遠くて行けない」といった声が多く寄せられた。

現在

- 令和4年8月から、郵送による
自主返納手続きが開始

お気軽にご相談ください

皆さまのお声をいただき、今後の県政に活かしてまいります。お困りごと、ご意見をお寄せください。政治に関心のある若い皆さまのご提言もお待ちしております。不在の場合がございますので、できましたらメールかFAX、LINEなどでご連絡いただけると幸いです。

// 日々の活動などを配信中!! 是非のぞいて見てください。//

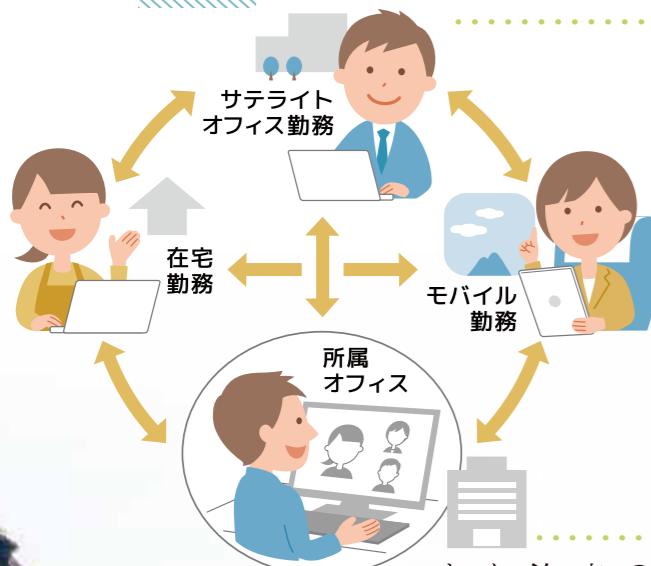


岐阜県議会議員
高木貴行事務所
多治見市滝呂町17丁目60-1
☎ 0572-45-0265 FAX 0572-45-0266
E-mail/gifu@t-takagi.jp
Official site
高木貴行
公式ホームページ
<https://t-takagi.jp>



駅から離れた園まで送迎するには、自家用車があれば便利ですが、都市部では自家用車を持ついない家庭も多くあります。流山市の場合は、駅前までの商業施設や大型マンションの建設が進んでいることから、都市部から流入してきた世帯も多く、自家用車の所率が高くないという実情がありました。

子どものそばで働けるまちづくり



新市庁舎の一部を送迎保育ステーションとして活用する方法を模索すべきだと私は思います。

そこで送迎保育ステーション事業を始めたところ市民のニーズとマッチし、あわせて保育施設を続々と作っていった結果、利用者とバスの本数が増え、出生率も高まるという好循環が生まれされました。(グラフ)

多治見市でも少子高齢化が年を追うごとに進んでいます。ファミリー世帯を誘致するためには「子どもを育てやすい街」、「多治見」に思い切って舵を切り、再開発が進む多治見駅周辺の施設や、

くり

です。

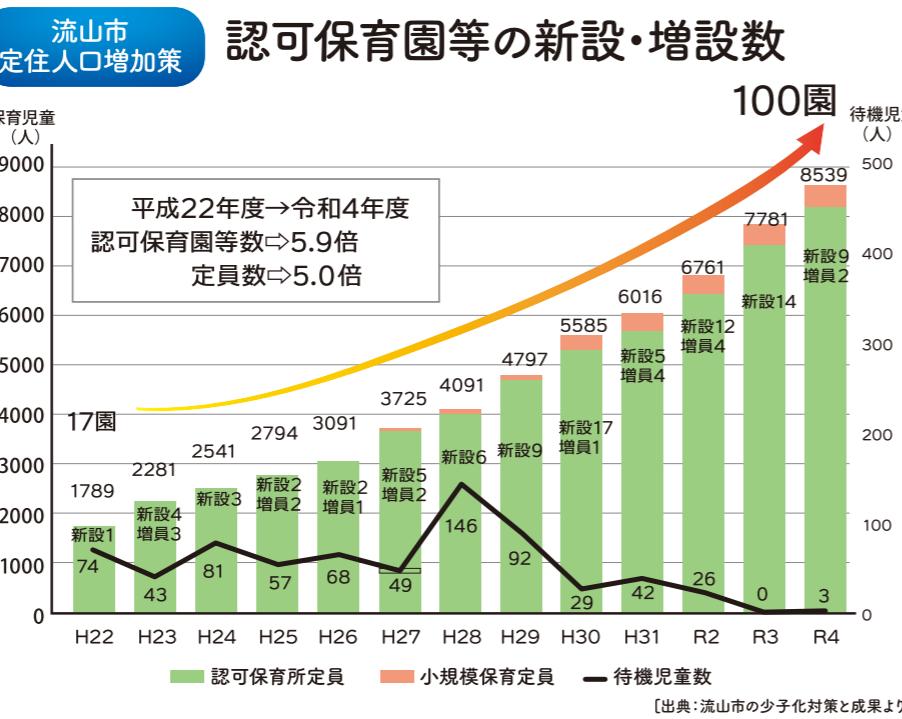
近年、異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場所に集まり、作業場を分け合う「コワーキングスペース」と呼ばれる場が増えてきました。また、起業のときに独自でオフィスを構えるのではなく、このスペースを利用する人も増加傾向にあります。

流山市でも、コワーキングスペースに企業が「サテライトオフィス」という、本社とは別の支店を構えるケースが増えており、市もその企業に対し補助金を出したり市の休眠施設を貸し出したりといった積極的なサポートを行っています。

市内にサテライトオフィスが設置されることで、急な病気など子どもたちに何かあった際にすぐ保育園に駆けつけることができるという安心感が生まれます。そうした安心感が、流入人口增加の一翼を担っています。

流山市には、「母になるなら、流山市」、「父になるなら、流山市」という有名なキャッチフレーズがあります。「母になる」「父になる」という言葉は、子育てだけではなく子どものそばで親が働きながら、結果として「親自身も自己実現できる」ことを指しているように思います。

先の「送迎保育ステーション事業」と同じように、「コワーキングスペース」の設置は、多治見駅周辺の施設でも応用でき、「子どものそばで働ける多治見市づくり」も実現できるのではないかと考えていますが、市民の皆さまいかが思われますか?



全国には、少子化対策に成功している地方自治体がいくつか見られます。ここでは千葉県流山市の子育て支援対策を取り上げ、私たちの住む多治見市にも応用できないかを考えます。

千葉県北西部に位置する流山市は、都心へのアクセスの良さと自然の豊富さが魅力の街です。つくばエクスプレスを使えば、東京の秋葉原まで約20分と都心に出やすく、さいたま新都心や幕張、羽田空港など主要な場所にもアクセスしやすい立地です。また、300を超える公園や森があり、オオタカが生息する「市野谷の森」や戸川・利根運河など、水と緑に囲ま

出生率も人口も 増えている千葉県流山市



れた美しい街としても知られています。以前は商業施設も少なく、街の高齢化が進んでいた流山市でしたが、病院やファミリー向けマンション、保育施設などが整備された結果、近年はファミリー層の流入が増えています。人口増加率は、2017~2020年の4年連続で全国1位、千葉県内で合計特殊出生率は2019年・2020年と2年連続1位と、人口の背景には、流山市の手厚い子育て支援制度があるとされています。

送迎保育ステーションの基本的な仕組み

01

朝、保護者が自宅から送迎保育ステーションまで園児を送る



02

在籍する保育園にバスで送るまで保育室ですごす



03

専用のバスで園児を通園する
保育施設に送迎する



04

保育時間が終了後、園児を専用バスで送迎保育ステーションに戻し、保護者が迎えに来るまでの時間すごす



05

保護者が迎えに来て帰宅する



流山市では、市内2か所の駅前に設置した送迎保育ステーションで児童を預かり、一つの駅では5コース23施設、もう一つの駅では3コース13施設の保育園にそれぞれバスで送迎を行っています。